

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学 学術情報センターだより

vol. **51**

2019年11月29日
【編集・発行】
神戸市外国語大学
学術情報センター



AD ALTIORA SEMPER (アド・アルティオラ・センペル) とは
ラテン語で「常により高きを求めて」という意味です



資料展示

『もっと楽しく中国語♪(汉语趣学习)』
がスタートしました！ ... P.5

P.1 巻頭言

P.4 第1回「見たい映画を決めろ！
シマネでバトル@外大図書館」
を開催しました！

P.3 著書紹介

P.5 選書ツアーを開催しました
P.6 つながれ読書のバトン
ほか

人生は、いろいろあるからおもしろい♪

学術情報センター グループ長 松永 憲明

本年4月から学術情報センターで勤務することになり半年を経過した。3月末までは神戸市立図書館に在籍していて、図書館という場での仕事は今年で37年目となる。図書館司書として神戸市職員に採用され他部局への異動もなく、ずうっと図書館で働いてきたのであるが、この人生を選んだ(結果的にこうなった)のは29歳になる直前であった。

大学では文学部史学科で地理学を専攻し学芸員課程を履修し始めたものの、部活動(体育会自動車部)にのめり込んでしまって資格取得には至らず、卒業と同時に自動車(中古車)販売の職に就いた。クルマは好きだが、ノルマ達成のため休日も休めずに朝早くから夜遅くまで働くことや、また将来にわたってそのことが続くことへの不安などもあり2年足らずで辞めてしまった。

辞めたあとは、車庫証明等の手続き代行を行う行政書士資格取得のための勉強に図書館に通ったが、ある日壁にあるポスターに目が留まった。桃山学院大学が行う「司書講習」の受講生募集であった。一応大学は出ているので、「資格を取得しておくのもいいかな」という安易な気持ちで受講を決めたが、この一枚のポスターが人生の大きな転機となったという次第である。

司書講習では、図書館法第6条の規定による19単位の科目を修了したが、大学では怠けていたためか久しぶりによく勉強した。また、講習修了後に行われた図書館学特別講座(図書館と情報検索)も受講したが、こちらはコンピューター(当時はマイコン)に少し興味があったこともあり、司書講習そのものより面白く学べた。音響カプラーを使って電話でアメリカにある大型コンピューター(DIALOG)と接続する実習は、これからの図書館では、司書資格を持っていてもコンピューターのことが分からないと役にたたないことを教えてくれた。

さて図書館で働くようになることについては、司書講習事務室のお世話になり、1982年10月から堺市立中央図書館でアルバイト、嘱託職員として新館開設準備の仕事が始めていたが、建物が竣工し書架の搬入が終わったところに、司書講習事務室から神戸市職員(司書)採用試験があることを知らされた。

神戸市立図書館といえば、司書講習の授業では古くからの伝統があり、レファレンスで志智嘉九郎元館長が先進的な取り組みをした事などを聞いていたので、採用されるはずがないとは思いつつ、受験できる年齢が30歳までと高く、何度か挑戦できそうなので試しに受験したら、結果はなんと合格だった。

そういうことで、司書になろうなんて積極的には思わないまま1983年6月から神戸市立中央図書館で勤務することとなったが、最初の職場は自動車図書館だ。またクルマ関係の仕事に逆戻りである。採用されてすぐの研修時に本庁(教育委員会)の庶務課長が「松永君は自動車関係の仕事をしてきたので、自動車図書館に乗ってもらおう。」と言われたことを覚えているが、いま考えても何かおかしい。クルマ好きとは関係ないが、自動車図書館での仕事は車輛の更新に係る事務や、巡回ステーションの新設・再編等を担当するうちに7年と長くなった。そのあと2年間の1階窓口の業務を経て整理係へ移るのだが、そこには現在の職場である本学との出会いが待っていた。



▲ 自動車図書館(みどり2号)。雪の有馬温泉巡回ステーション

整理係に異動した1992年、本学図書館では業務電算化について検討を始めていた。翌年には市立図書館（公共）とファッション美術館ライブラリー（専門）との、館種を超えた神戸市図書館情報ネットワークシステム構想が出され、係の電算運用委員であった私は、この大きな仕事に巻き込まれてしまうのである。

翌1993年には文部省学術情報センター（NACSIS）から教授を迎えて、「神戸市図書館情報ネットワーク研究会」を立上げ、ダウンサイジングされたクライアント・サーバ方式による図書館システムの適否について検証を行い、その翌年には機種等選定委員会でシステム開発業者を選定した。この「ネットワーク研究会」や機種（業者）の選定は、市立図書館や教育委員会の枠を超えた全市的な取り組みであり、初めてのことも多くあったが、やりがいのある貴重な経験となった。

また、開発が始まると神戸市の図書館情報ネットワークシステムはNACSISと接続され、その先にある産声をあげたばかりのインターネットにつながるようになった。その後、マルチメディア文化都市構想を打ち出した神戸市の方針により、本学図書館内に置かれたサーバにホームページが開設され、他の自治体に先駆けWWW（Web）による情報発信を開始した。1995年1月に阪神・淡路大震災が発生した際にはホームページへのアクセス数が急増し、雑誌やテレビなど多くのメディアでも取り上げられた。

地震は都市直下型で、これまで経験したことのない震度7という揺れが神戸の街を襲った。災害復旧の拠点となる市役所（本庁）が大きな被害を受けたほか、電気・ガス・水道のライフラインや交通網などが断絶し、都市機能が完全に失われた。市立図書館も大半が施設や設備に大きな被害を受け、1920年に竣工した中央図書館旧館と、1958年に開館した長田図書館は取り壊すことになった。震災直後は、「もう図書館で働くことを続けるのは無理じゃないかな」とホントに考えた。

各図書館の被害状況や救援活動のことは紙面の都合もありこの稿では省くが、復興の槌音も響き始めた4月に昇任し整理係長となった。採用からまだ12年、しかもその半分以上が自動車図書館にいた経験しかない私が（？）である。係長となると自分の裁量でできることも多くあるのだが、とにかくやらねばならないことが山積していた。



▲ 地震による落下図書（中央図書館1階）

整理係長でも次のシステム更新を済ませるまで、6年と長居をしてしまったが、その後は地域図書館長を経験するもシステム更新の都度その担当部署に戻され、本学及び看護大学の担当者と共に新たなシステム調達手続き（総合評価入札）や新機能の開発に携わることとなるのである。

時は流れて2016年3月、私は神戸市立図書館の利用サービス課長として定年退職を迎えたが、その翌日からは再任用職員として中央図書館に留まり、また、本学で非常勤講師として司書課程のひとコマを担当させていただいた。そして3年が経過しようとする昨年（2015）の秋、再任用期間の更新についての意向調査の場で、その職を完全に退きたいことを告げた途端に「外国語大学の図書館で働く気はないか？」と尋ねられた。

あと2年で、また学術情報システムの更新時期がやってくると聞かすが、今度は本学の職員として関わることになる。ホントに人生は、いろいろあるからおもしろい♪

読まないことには 始まらない

総合文化 准教授
山本 昭宏 (やまもと あきひろ)

教室で「大江健三郎を読んだことがある人はいますか?」と問いかけて、沈黙に耐えて待ち続けても、学生の手は挙がらない。恥ずかしいから手を挙げない、というわけではないようで、「村上春樹は?」と訊けば、手は挙がる。

かつて、大江健三郎という名前は、ある輝きとともに語られていた。1950年代末から、おそらくは90年代までの長きにわたって、狭義の文学愛好者のみならず、知的好奇心を持つ人びとにとって、大江の小説は議論の対象であり続けた。

『大江健三郎とその時代』では、大江の小説と社会的発言の双方を扱いながら、彼の営為をたどろうとした。そこから見えてきたのは、大江が書き続けたテーマが共同体というテーマだ。

私たちは、しばしば「人は一人では生きられない」という表現を耳にする。それは確かにその通りだが、集団で生きることまた、幾多の困難を伴う。では「人は他人とは生きられない」のか。そうではないだろう。家族という親密な共同体から、国や民族という大きな共同体まで、人は共同体とともに生きざるを得ないけれども、共同体を作るといふ営みは、排除を伴い、共同体内部に階層をつくってしまう。大江の小説では、成員が生き生きと平等に生きることの出来る共同体が夢見られるが、ユートピアを作ろうとする試みは、必ず破局に終わる。にもかかわらず、大江はユートピアを目指す共同体を書き続けようとするのである。

「なんだか難しそうだな」と思われたかも

『大江健三郎とその時代』 「戦後」に選ばれた小説家

山本昭宏(著)
人文書院、2019.9発行

図書館所蔵：N910.26-200



しれないが、とにかく読んでみて欲しい。いま、このエッセイをお読みの方には、これから大江作品と出会う、という人も多いだろうから、以下、大江の小説を紹介しておきたい。

初めて読む方には、「飼育」や「他人の足」など、初期の短編小説を薦めたい。20代前半の青年が書いたとは思えないほどの完成度と、「変な日本語」を楽しむことができる。また、大江が優れたストーリーテラーであることも、よくわかるだろう。長編ならば、迷わず『万延元年のフットボール』を薦める。私がこの作品を読んだのは大学生の頃だが、読んでいる最中から、世界が違って見える、という経験をした。

上記の作品を手にとって、「いや、この文章が無理なんですよ」という人もいるはず。それなら、文体が平易になった80年代から90年代の作品を薦める。短編集なら『静かな生活』、長編ならば『キルプの軍団』はどうだろうか(ただし、大江と長男・光との関係を事前に知っているのが望ましい)。

ということで、私のエッセイなどは投げやって、私の本も読まなくて良いから、大江の作品を手にとってほしい。挙げた作品はすべて、本学の図書館にある。読まないことには何も始まらない。一人か二人でも、教室で手が挙がる日が来ますように。

📖 文中紹介作品情報

「飼育」「他人の足」/『死者の奢り・飼育』、新潮社、2013年(図書館所蔵：新潮文庫)

「万延元年のフットボール」/『大江健三郎全作品』、新潮社、1977年(図書館所蔵：N918.68-27-1)

「静かな生活」/『大江健三郎全小説』、講談社、2018年(図書館所蔵：N913.6-1122-9)

第13回ラーニングアドバイザートークイベント

「シネマdeバトル スペイン語圏映画編」を開催しました〔2019.6.27〕

図書館ラーニング commons の一角のデスクでは、大学院生スタッフ「ラーニングアドバイザー」(略称エルエーLA)が、レポートや論文の書き方に関する相談にのっています。また、並行してLAによるイベントを開催しており、2014年のLA活動開始から13回を数えます。

2019年度前期は、本学イスパニア学科卒業で映画好きのLAが2人いたため、スペイン語の映画のイベントを企画することにしました。さらに、授業でスペイン映画を扱っているイスパニア学科准教授のファン・ロメロ先生のご協力を得て、受講生を交えてスペイン語圏の映画を紹介するイベント「シネマdeバトル スペイン語圏映画編」を開催しました。

今回のイベントは、書評ゲーム「ビブリオバトル」のルールに準じて、各発表者がおおすすめの映画を5分間紹介し、観客の投票で一番見たくなった映画を決めるといふものです。前述の3人に、映画好きの図書館職員が加わり、4人の発表者がおおすすめのスペイン語圏の映画を紹介しました。

- ① 『人生スイッチ』(2014)
アルゼンチン＝スペイン映画 [DV-3390]
- ② 『ブエノスアイレス恋愛事情』(2011)
アルゼンチン＝スペイン＝ドイツ映画 [DV-3196]
- ③ 『オール・アバウト・マイ・マザー』(1999)
スペイン映画 [VSMo-192]
- ④ 『インビジブル・ゲスト 悪魔の証明』(2016)
スペイン映画 [DV-3659]

(発表順。[]内は当館請求記号)

取り上げられた作品は、スペインとラテンアメリカの映画が2本ずつ、ジャンルもコメディ・ドラマ・サスペンスと見事に分かれました。発表者は思い思いにおおすすめ映画の見どころや魅力を語り、観客との質疑応答も活発になされました。いずれの作品も票を得て、最終的に最多得票を集めたのは『インビジブル・ゲスト 悪魔の証明』でした。



▲ シネマdeバトルの様子

イベントで紹介された作品はすべて図書館で所蔵しています。興味のある方はぜひご覧になってみてください。また、閲覧室入口には、発表者のLAをはじめ、歴代LAによるおすすめ映画紹介POPを多数展示しています。映画選びのガイドとしてご活用ください。

図書館では各専攻に密着した資料選びをしており、視聴覚資料(DVD)も同様に専攻言語ごとに集中的に集めています。イベントのアンケートでは、「スペイン映画を見まくりたくなった!」「膨大な数のスペイン語映画の中で、何を見るのか指標になりました」との声も寄せられました。これからも、イベントやPOPなどを通して、身近な情報共有の場を作っていきたいと思っています。



▲ シネマdeバトルの告知ポスター

イベント

第9回学生選書ツアーを
開催しました！〔2019.10.16〕

10月16日(水)の午後、ジュンク堂書店三宮店にて学生選書ツアーを開催しました。今年の参加人数は8人、全員初めての参加でした。1人3万円という予算の感覚がつかめず、最初は数冊ずつ持ってきていた学生達も、10冊を超えたあたりから中々3万円には届かないことに気づき、そこからは時間との戦いです。自分の予算を使い切った学生がまだ予算に届かない学生を羨ましがる場面も。今回初めて顔を合わす学生同士でしたが、終了間際には打ち解けた雰囲気も見えました。139冊の選書本は、話題の小説や実写化された作品など、書架に並べばすぐにでも借りられていきそうなものばかり。12月中に展示する予定です。冬休みは魅力あふれる本に囲まれて過ごすのもいいかも。ぜひ借りに来てください。

選書ツアーの様子 ▶



新コーナー!



神神(シェンシェン)

『もっと楽しく中国語♪(汉语趣学习)』がスタートしました!

*

閲覧室カウンター横の壁面に、各言語コーナーがあります。7月から中国語が新コーナーとしてスタートしました。コンセプトは「気軽に手に取ってもらえる中国語の本」です。絵本や児童書、漫画、多読図書、語学学習資料などが配架されます。標準語である北京語(簡体字)の他、台湾語(繁体字)のものも。中国語は漢字を用いているので、日本人であれば学んだことがなくても意味がつかめます。ぜひ手に取ってみてください!



📖 オススメ資料

- 『哆啦A梦』N726-174-1 他
ドラえもんの台湾版です。“え”だけアルファベットなのが面白い。
- 『好饿的毛毛虫』N909-292
有名な絵本『はらぺこあおむし』です。“毛毛虫”の読みは「マオマオチョン」。字面はともかく響きは可愛い。
- 『虎王子』N909-293
2005年にドイツ児童図書賞を受賞した絵本。中国の伝統的水墨画の手法を用いた迫力ある絵は必見です。
- 『冰雪奇缘』N827.7-66-6
ディズニー映画「アナと雪の女王」のピンイン付き絵本です。トイ・ストーリー、美女と野獣等他にも多数。

“They say/I say”: the Moves that Matter in Academic Writing

Gerald Graff, Cathy Birkenstein 著

アカデミック・ライティングとは他者との会話である。これは、大学レポートの書き方がわからず迷走していた私に、この本が教えてくれた最初の心得だ。他者の意見を文に取り入れ、それに対して自分の意見を述べる。もちろん、証拠も

添えながら。著者ら考案の「テンプレート」は、この会話の流れを円滑にしてくれる。ぜひ各章の設問に取り組んでほしい。きつと、苦手なアカデミック・ライティングが得意になるにちがいない。



第一走者
福山 あゆみ

「つなぐれ読書のバトン」投稿募集!

200字以内であなただのお気に入りの本を紹介してください。メールで氏名またはペンネーム・紹介資料書名・著者名を明記し、下記の宛先まで、学生、教員、職員など利用区分に関係なくどなたでも応募いただけます。

〈応募先〉

ayana-nishimura.7c@office.kobe-cufs.ac.jp

注意事項

- 氏名またはペンネームを掲載させていただきます。
- 外大図書館に所蔵がないものも応募できます。
- 漫画・雑誌等のご遠慮ください。

日曜開館のお知らせ

後期試験期間中の日曜日、下記のとおり開館します。開館時間は土曜日と同じです。どうぞご利用ください。

日 程 ▶ 2020年1月26日(日)、2月2日(日)

開館時間 ▶ 10:00~18:00

※カウンターでのサービスは貸出・返却のみです。

※開館カレンダー(図書館HP)はこちらからもご確認いただけます ☞



ウェブで見られます

図書館ホームページにて学術情報センターだより「AD ALTIORA SEMPER」をご覧いただくことができます。「神戸外大 センターだより」で検索してみてください。

学術情報センターだより
「AD ALTIORA SEMPER」URL
<http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/pamphlet/index.html>



📖 図書館日誌 《2019年7月～2019年11月》

2019年	6.4-7.28	展示「司書のおすすめD」第44回
	7.15-8.2	2019年度第2回 Re ユース
	7.21/28	試験期日曜開館
		7月のゼミガイダンス 7回実施
	8.4/18	オープンキャンパス(専攻言語の図書展示、司書による書庫見学ツアー)
	8.19-27	蔵書点検
	10.1-1.31	展示「司書のおすすめD」第45回
	10.16	第9回選書ツアー
	11.12/13	トライやるウィーク(1校2名受入)



		AD ALTIORA SEMPER vol.51 神戸市外国語大学学術情報センターだより 第51号
ISSN		0919-2336
編集・発行		神戸市外国語大学学術情報センター
		〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1
		TEL : 078-794-8151 / FAX : 078-797-2257
		URL : http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/
発行日		2019年11月29日
発行責任者		センター長 芝 勝徳